

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972200089		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホーム 四つ葉のクローバー		
所在地	奈良県宇陀市菟田野古市場481番地		
自己評価作成日	平成28年9月2日	評価結果市町村受理日	平成28年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成28年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた街で、老いても障害があっても、誰もが安心して暮らせる地域社会づくり。の理念から、その為の人材づくりに力を入れ、入居者様の安心した生活の提供に職員一同取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立11年目で、地域住民とも親しい関係を築いておられます。広い敷地内には畑や利用者が座って外の様子を楽しめる空間があり、家族とゆったりした時間を過ごせる場所も確保されています。勤続年数の長いスタッフが多く、利用者顔なじみの関係が築かれています。身体拘束をしないことと残存機能の維持に力を入れ、研修にも積極的にスタッフがスキルアップしながら利用者をケアされており、利用者は安心した生活を送っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期カンファレンス等でのディスカッションを通じ理念を深める時間を設けています。	法人の理念を元にホームの理念を掲げておられます。	入職時や毎月のカンファレンスで確認するなど、定期的に職員間で理念の共有を図ることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなか毎日の交流は難しく、定期地域清掃などの時を地域交流を深める場としています。	ボランティアの受け入れや、小・中学生とのふれあいの時間を持っておられます。自治会にも入り、地域交流を図っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方で認知症を患われている方が一人で外を歩かれていた事があり、その場で声かけ、保護をし家族に連絡路入れてもらう等の地域支援を実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年8/22に実施。	現状は、年に1回運営推進会議を開催されています。	ホームの円滑な運営のためには2ヶ月に1回の定期的な会議で活発な意見交換をされることを期待します。また、議事録作成の改善も望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設の担当ケアマネージャーを筆頭にわからない事や困ってる事を積極的に連絡をするようにしています。	市役所の担当者とも顔見知りの関係を築き、協力体制があり、情報交換も密に行っておられます。	今後、よりよい運営に向けて、さらに協力体制をとりながら、行政へ運営推進会議への積極的な参加を働きかけることなどが望まれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に玄関等の施錠は行わず、施錠時間を決めている。その他拘束についても、職員間で話し合い知識を深めています。	身体拘束をしないケアには特に力を入れておられます。ホーム内外の研修で知識を深め、日々のケアやカンファレンスで拘束していないかを見直し、検討されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の介護・不穏対応でのストレス軽減を図り、一人の職員で対応しない様にし、チーム介護の徹底とケースカンファレンスや対応等のディスカッションの実施で虐待防止に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各教育を会社全体と行い、問題点等をケアマネージャーに情報を集め、関係者とのカンファレンスに繋げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に対応をし申し伝える時間を設けている。なかなか時間が作れない状態の家族様に対しては、封書でお送りした後で、電話連絡の実施を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各家族様からのご要望は可能な限りお答えし、運営促進会議等で発表する機会を設けています。	運営推進会議や面会時に家族から積極的に意見や要望が出され、そのつど検討されています。また、面会の時などに家族が話しかけやすい関係を築いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやディスカッションの中で意見交換を行い、社内運営会議の席で内容を発表し、代表のとケースディスカッションに繋がった上でなるべく反映させる手順を踏んでいます。	スタッフは管理者に意見・提案しやすい関係にあり、管理者はスタッフの意見を積極的に受け入れ、職場環境の改善など、そのつど検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績会議や、グループ内会議等の場を用い就業環境についてのミーティングを実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修への参加を通し職員個々のスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後 どの様に取り組むべきなのか検討中です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談時にご利用者様本人との時間を設け、本人様の思いや、不安要素を確認し案して生活して頂く関係性を構築しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談時にご利用者様本人抜きでの時間を設け、家族様の思いや、不安要素、ご利用者様への思いを確認し安心してホームに任せて頂ける様な関係性を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面談にて今の生活でのご様子や注意点・留意点を確認しご本人様にもいろんな生活面等の確認を実施し我々で出来る事を精査する場にしてしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力の把握と支援策を頭に入れ、出来る事は率先して行える環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の体調の変化等密に連絡を取り合っ、ご家族様との絆の部分にも十分配慮し繋がりがや、関わりを持っていただく調整役としても理解し業務にあたっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方のお話は共に行っているが、場所は身体的な状況や体調面を考えるとなかなか難しい所があるが、実現に向け思案・検討中です。	利用者の状態により、困難なこともありますが、個別に散髪などの要望に応じておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その場その時の状況に合わせてご利用者様同士が関わり合える状態作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的な連絡を実施したいのですが、現状なかなか出来ておらず、何らかの要件がある時だけの連絡となっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との関わりの中で聞き取りを行い、生活・暮らしの中での希望・意向を実現できるように工夫しています。また困難な場合はご本人様の立場になり検証・検討しながら実現に少しでも近づけるようにしています。	普段の何気ない会話から思いや要望を汲み取るようにされています。また、これまでの生活歴などを考慮し、その人に応じた支援をされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みのもの、サービス実施歴に関しては入所前面談時に聞き取り(ご家族様とご本人様)を実施し、以降も職員との関わりの中で新たな事項を把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりや、関わっている職員からの申し送り事項の中で把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット・個々のケアカンファレンスを通し、より良い生活を送って頂ける様に介護計画に取り入れ、また 急な状態の変化が現れた時もチーム一丸となって職務にあたる様に行っています。	カンファレンスでスタッフが意見を出し合い、家族などの意見も取れ入れ、そのつど評価しながら現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に関する事柄は、記録に残し、また 口頭でも申し送りを実施し介護計画の中に盛り込む工夫を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員で行える事か否かを精査し実施内容を検討し実施。出来ない事に関しては社内会議に持ち込み、検討し実現できるように働きかけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を行い、協力を要請しながら楽しく暮らして頂ける支援の実施を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	気になる点などをご家族様・かかりつけ医に相談しながら、適切に医療(受診)を受けられる環境づくりを実施しています。	入居時にかかりつけ医について家族と話し合い、それまでのかかりつけ医の継続や提携の病院へ移行するなど、適切な支援をされています。また、歯科の往診もあり口腔ケアも充実しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していませんので、訪問看護ステーションとの連携を密に図り、変化などに柔軟に対応できる環境づくりを実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と連携を密に取りご本人様やご家族様が安心して入院・治療・退院と行える環境作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族様との話し合いの中でホームで出来る事を説明しています。ターミナルケアについての同様に話し合いを持っていますが、現状でターミナルケアの実践が困難な状態であり、今後の最重要検討課題です。	これまでに看取りの例があり、重度化した場合は、その時々で家族・医療関係者と相談して対応されています。研修の機会を増やし、看取りについてスタッフも前向きに取り組んでおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態の対応は消防訓練時に実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し災害に備える準備をしています。	年2回、避難訓練が行われています。また、毛布やコンロなどの備蓄をされています。	現在、日中の訓練をされていますので、今後、夜間を想定した訓練の実施とともに、地域住民との災害時の協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員としての接遇マナーを心がけながら業務にあたっています。	利用者の誇りを損ねないよう、スタッフの言葉かけに対して管理者が気づいた時には声をかけ、スタッフ同士でも注意しあえるよう心がけておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも選択して頂ける状況を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのものや馴染みのものを身に付けられる支援を心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化されているご利用者様は一緒に取り組むことが難しいが、そのほかの方々はお声掛けを行い一緒にして頂く機会を設けています。	利用者が出来ることは手伝ってもらうようにされています。また、利用者の誕生日には食べたい物、月に1~2回の刺身や正月には鍋料理などを提供し、食事を楽しむ工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック表を用いて記入し摂取量の確認を行いながら不足分等を指南できる様にし、その方々に合った支援を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施を心がけているが、うまく進んでいないのが実情。朝夕のケアが中心となっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄管理を行いタイミングを計れる状態で支援しています。	排泄パターンを把握し、個々に応じた排泄支援をされています。夜間も、利用者の訴えに応じてトイレ誘導されています。また、尿路感染の予防にも力を入れておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や、水分摂取量、お薬で便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の状態を観察しながら安全に安心して入浴を楽しんで頂ける支援を実施しています。	平日の日中は入浴出来る状態にして、週に2~3回入浴出来るように支援されています。利用者の気分で入浴したいとの希望があれば入浴出来ます。拒否される方へも入浴を促しておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団の天日干しや、シーツ、パットの定期的な清潔を保持し安心して休んで頂ける支援を実施しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の下、服薬して頂ける支援を実施しています。服用後の変化も職員の見守りの中実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に合せ、可能な限り職員と何らかの活動をして頂ける支援をし、体調に合わせて中止したりもしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望通りにはなかなか難しい所があるが、家族様等との話し合いの中で出来る限りの外出支援を実施している。	利用者は敷地内の畑や洗濯干し場、座ってくつろげるスペースで自由に過ごしておられます。また、天気の良い時は外でのおやつやドライブ、買い物や外食の支援もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してはある程度額を決めさせて頂いて万が一のトラブル回避を行いながら自己管理をして頂いている。また、金銭を家族様よりおいくらお渡しされたかを申し送りをして頂き、管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては本人様の申し出に合せ電話をかけて頂いているが、手紙に関してはなかなか難しい所が入ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の持ち物や居室に名前の表記をわかりやすい状態を作り、建物内部は空調管理を行い、生活して居心地の良い状態を提供している。	ホーム内は明るく、空調も管理され、臭いもなく、ゆったりと気持ちよく過ごせる空間となっています。2ユニット間の行き来も自由で、季節に応じた飾りつけも工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では個々の時間を大切に頂く為にも干渉し過ぎないように配慮し、他の方が変に干渉される場合はお声が外を行い個々の時間を大切に頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大がかりな事は出来ないが、小物や写真、ダンス等はご家族様と協議し可能な限り対応している。	出来るだけ本人のこれまでの生活の延長となるように家族と相談しながら、本人の状態に合わせて居心地の良い居室になるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様を中心とし、生活歴から出来る事・わかる事を職員と共に行い、迷われたりした時はヒントをお渡しし 認知症予防にも繋げている。		